

常在寺の守護像

常在寺の正門の両側には、悪から守るために、仁王と呼ばれる仏教の守護神が2体立っています。これらの神々は通常、裸の胸の筋肉の体格、激しい表情、そして武器を手に持って描かれています。仁王は常にペアで表示され、1つは口を開いた状態で、もう1つは口を閉じた状態で表示されます。開いた口は「a」の音を発し、閉じた口は「n」を発声します。これは、日本語の音節文字（元々はサンスクリット語でアとハム）の最初と最後の音で、始まりと終わり、または誕生と死を表します。

彫像は、1825年に地元の石を使用して彫刻家によって彫られました。塩田津地区は石材と職人の技で古くから知られており、同様の石の守護像が近隣の各地で見られます。